



2022年11月28日

各報道機関 御中

宮崎大学企画総務部

総務広報課長

野鳥(マガモ)糞便からの高病原性鳥インフルエンザウイルス (H5N1 亜型) の検出について

11月21日(月)に宮崎市佐土原町の渡り鳥飛来地で採取した49個の糞便を、宮崎大学産業動物防疫リサーチセンター(CADIC)で分析した結果、マガモの糞便1検体から高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N1 亜型)が分離されました。

経緯：

- 11月21日(月) ・宮崎市佐土原町の渡り鳥飛来地において野鳥糞便49検体を採取。
- 11月21日(月) ・発育鶏卵に糞便乳剤を接種(糞便中のウイルスを増殖)。
- 11月24日(木) ・1検体で、鳥インフルエンザウイルスを検出するHA(赤血球凝集)試験とインフルエンザ迅速診断キットの陽性を確認。
- 11月25日(金) ・RT-PCR検査により鳥インフルエンザウイルスの亜型がH5N1であることが判明
- 11月28日(月) ・鳥取大学農学部共同獣医学科附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センターに分離ウイルスと糞便検体を送付。
 - ・ウイルスの塩基配列を解析し、H5 亜型であること、高病原性株の特徴であるHA開裂部位に連続する塩基性アミノ酸(KRRKR)の配列を確認。
 - ・糞便の遺伝子検査の結果、マガモの糞便であることを確認。
 - ・宮崎県自然環境課に結果を報告。

① 発信元

総務広報課広報係(後田・廣谷)

TEL: 0985-58-7114

② 問い合わせ先

宮崎大学産業動物防疫リサーチセンター(目堅)

TEL: 0985-58-7881

E-Mail: mekata@cc.miyazaki-u.ac.jp



Press Release

令和4年11月28日

※ 宮崎大学同時発表

野鳥の糞便採取調査の結果等について

宮崎大学の調査において、11月21日（月）に宮崎市佐土原町の調整池で採取された野鳥（マガモ）の糞便から、本日、高病原性鳥インフルエンザウイルスが検出されました。

1 概要等

(1) 調査地及び調査方法

宮崎市佐土原町の調整池で宮崎大学がウイルス保有状況検査を実施。

(2) 今回の調査で検出された地点

宮崎市佐土原町の調整池

(3) 経緯

- ・ 11月21日（月）、宮崎大学が宮崎市佐土原町の調整池で野鳥の糞便を採取。
- ・ 11月28日（月）、宮崎大学が検査を実施した結果、マガモの糞便1検体より高病原性鳥インフルエンザウイルス（H5N1亜型）を検出。

2 今後の対応について

(1) 野鳥について

環境省により指定された野鳥監視重点区域（当該糞便が採取された場所を中心とする半径10km圏内）において、野鳥の異常の監視を強化する。

(2) 家きん飼養農場について

立ち入り検査等の対応が必要となる採取した地点を中心とした半径3km以内の区域に家きん飼養農場はありません。

※現場での取材は、ウイルスの拡散や感染を防ぐ観点から、厳に慎むようお願いします。

（お問合せ先）

野鳥：環境森林部 自然環境課 野生生物担当 河野、松田

電話：0985-26-7291

家きん：農政水産部 家畜防疫対策課 防疫指導担当 大山、伊藤

電話：0985-26-7139